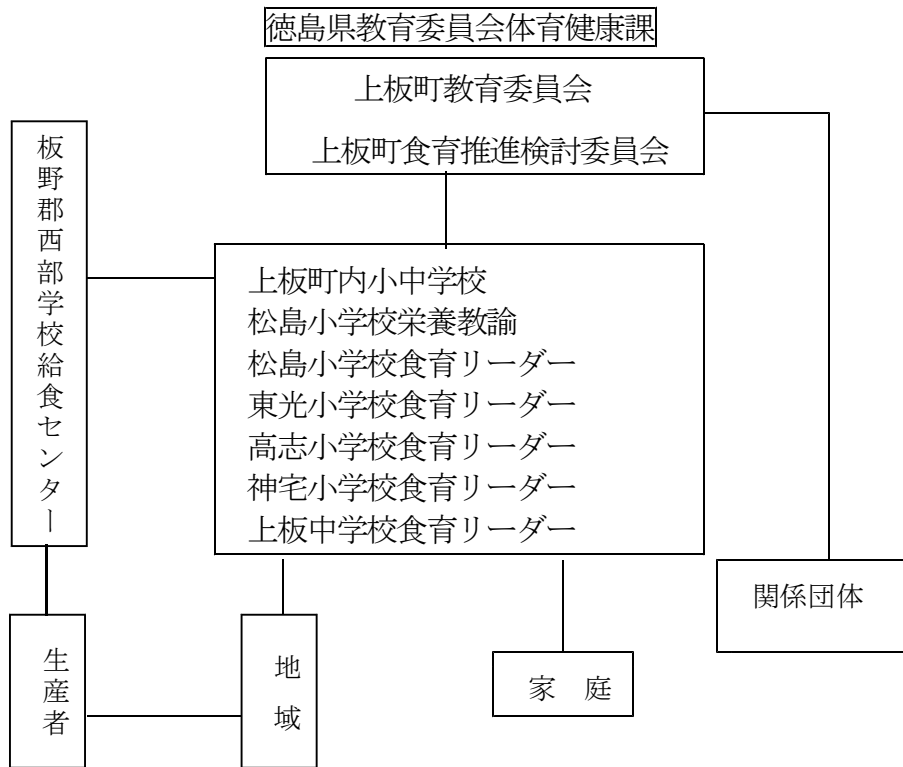


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	徳島県
推進地域名	上板町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 学校給食推進体制の整備

上板町食育推進委員会・・・上板町小・中学校における食育推進についての検討組織。  
(副町長・教育長・幼・小・中学・園長・校長・食育リーダー・PTA会長・保育所所長・保育所保護者代表  
福祉保健課・産業課・教育委員会事務局長・給食センター所長・栄養教諭)

開催日	協議内容
5月25日	平成21年度事業計画について
10月20日	上板町文化祭への参加について 栄養教諭を中核とした食育推進事業の取り組み状況について

上板町食育リーダー部会の開催・・・食育担当校長・小・中学校各食育リーダー・栄養教諭による食育推進検討組織

開催日	協議内容
4月28日	平成21年度事業計画 (各学校での取り組みについて) アンケートについて
7月15日	2学期の食育計画について 学校給食アイデア料理コンテストの募集 食生活アンケートの結果報告

校内食育推進委員会の開催・・・各学校における食育推進検討組織。

(校長・教頭・教務・研修主任・学年主任(低・中・高) 給食主任・養護教諭・栄養教諭・学校栄養職員)

## テーマ2 食に関する指導の充実

ねらい

食物の栽培・調理を通して食への興味関心を高め、地域の産物や、食文化を理解する。また、地域の方々とふれあうことで、生産者にかかわる人々へ感謝する心をもつ。

- 各小学校におけるゴーヤの栽培。(松島小学校・神宅小学校・東光小学校・高志小学校)

ゴーヤの植え付け

収穫

親子調理教室

ゴーヤ入り夏野菜カレー給食



7月17日徳島新聞で  
ゴーヤカレーが紹介される

- 神宅小学校4年生 (ゴーヤの栽培・収穫・調理)



- 東光小学校2年生 (生活科における実践 ) 「野菜を育てよう」

植え付け

野菜作り

調理実習

会食



- 松島小学校3年生 (れんこんの収穫体験及び栽培、収穫、親子料理教室)

れんこん農家見学

れんこん植え付け

成長したれんこん



収穫

親子調理教室

れんこんクッキー



・高志小学校1年（牧場への見学及びバター作り・搾乳体験）

牧場見学



バター作り



搾乳体験



・松島小学校5年生（サトウキビの栽培・収穫・調理）

植え付け



収穫



調理実習



成果

地域の人の心にふれ、勤労の大切さや、収穫の喜びを知り、食べ物への感謝の心ができた。さらに、食べ物大切さ命の大切さを理解することができた。

○ 講師先生を迎え食育講演会の実施。

上板中学校 6月 5日海老久美子先生 「スポーツ現場からの食育報告」

11月11日高橋 啓子先生 「地産地消と健康」

高橋先生の講義をうけて、そば米と和三盆糖を使った調理実習

調理実習



そば米汁



○ 栄養教諭のTTによる授業・調理実習・給食時間の学級への訪問指導。

総合学習



給食時間の指導






給食時間の指導



### テーマ3 学校給食の充実と地場産物の活用促進

- 各小学校で育てたゴーヤをゴーヤカレーとして給食で実施。
- 地場産物を給食に取り入れるための体制作り。
- 地域で栽培された作物（米・れんこん・枝豆・なすび・さつまいも  
すだち・小松菜・ほうれんそう・大根・かぶら・ねぎ・レタス・いちご）等給食に活用

#### <地場産物を使った献立例>

		
コッペパン 牛乳 かぼちゃのクリーム煮 レバーフランク パックケチャップ 枝豆	ごはん 牛乳 ごま昆布 さんまの塩焼き すだち れんこんの炒め煮	ごはん 牛乳 親子丼 すだち酢あえ

- (1) 米飯給食回数の増加

週約2.5回 → 週3回

- (2) 地場産物活用状況調査の結果

昨年度より給食センター所長と板野町栄養教諭等学校給食関係者がJA板野郡や生産農家などに働きかけ学校給食用食材の供給体制整備に努めていただいた結果、地場産物の活用率が増えた。

	平成20年度	平成21年度
11月調査	44.7%	55.4%

### テーマ4 学校・家庭・地域の連携による食育の推進

- ドクターズキッチンインスクール

目的 上板町の文化祭にて実施することで、児童・生徒の保護者や教職員・地域の方に正しい食習慣が健康に大切であることを知ってもらおう。

内容 食育講演会では、板東浩先生より、生活習慣病の予防として、毎日の規則正しい生活やバランスのよい食生活・運動を継続することが、大切であることをピアノを弾きながら、楽しく話していただいた。調理実演では三好順子先生より地元の特産物の柿等を使って健康により料理を教えていただいた。

講演会



試食品作り



実演



- 地域の方による干し芋・干し柿作り。
- 児童・生徒・保護者への食生活・学校給食アンケート実施
- 給食試食会の実施。
- 講師先生を迎え食育講演会の実施。
- 食育だよりを発行。
- 参観日に担任とTT授業や親子料理教室。
- 学校給食アイデア料理コンテスト実施。
- 子どもフェスティバルへの給食展示などの参加。
- 医師による生活習慣病対策の講演会及び新鮮な！とくしま号による料理講習会・試食品の配布。

干し芋・干し柿作り



### テーマ1～4に共通する具体的計画

- アンケートの実施により食生活や学校給食に関する実態把握（4月・12月実施）
- 各小学校におけるゴーヤなどの農作物を育てる農業体験活動・調理実習を行う。
- 食育講演会。
- 給食試食会や参観日に食育の授業を行う。

### 数字で変化のあった事項について

- (1) 米飯給食回数の増加

週 約2.5回 → 週3回

- (2) 地場産物活用状況調査の結果

昨年度より給食センター所長と板野町栄養教諭等学校給食関係者がJA板野郡や生産農家などに働きかけ学校給食用食材の供給体制整備に努めた結果、地場産物の活用率が増えた。

	平成20年度	平成21年度
11月調査	44.7%	55.4%

### 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 地場産物を取り入れた給食の実施。
- 農業体験活動や調理実習により児童の食に関する意識の向上。
- 食育講演会の実施による児童・生徒・保護者の食に関する意識の向上。
- 集会活動での健康の指導や日々の給食の献立黑板による食品群分けによる児童の健康に対する意識の向上。
- 学校給食・食生活アンケートの実施。

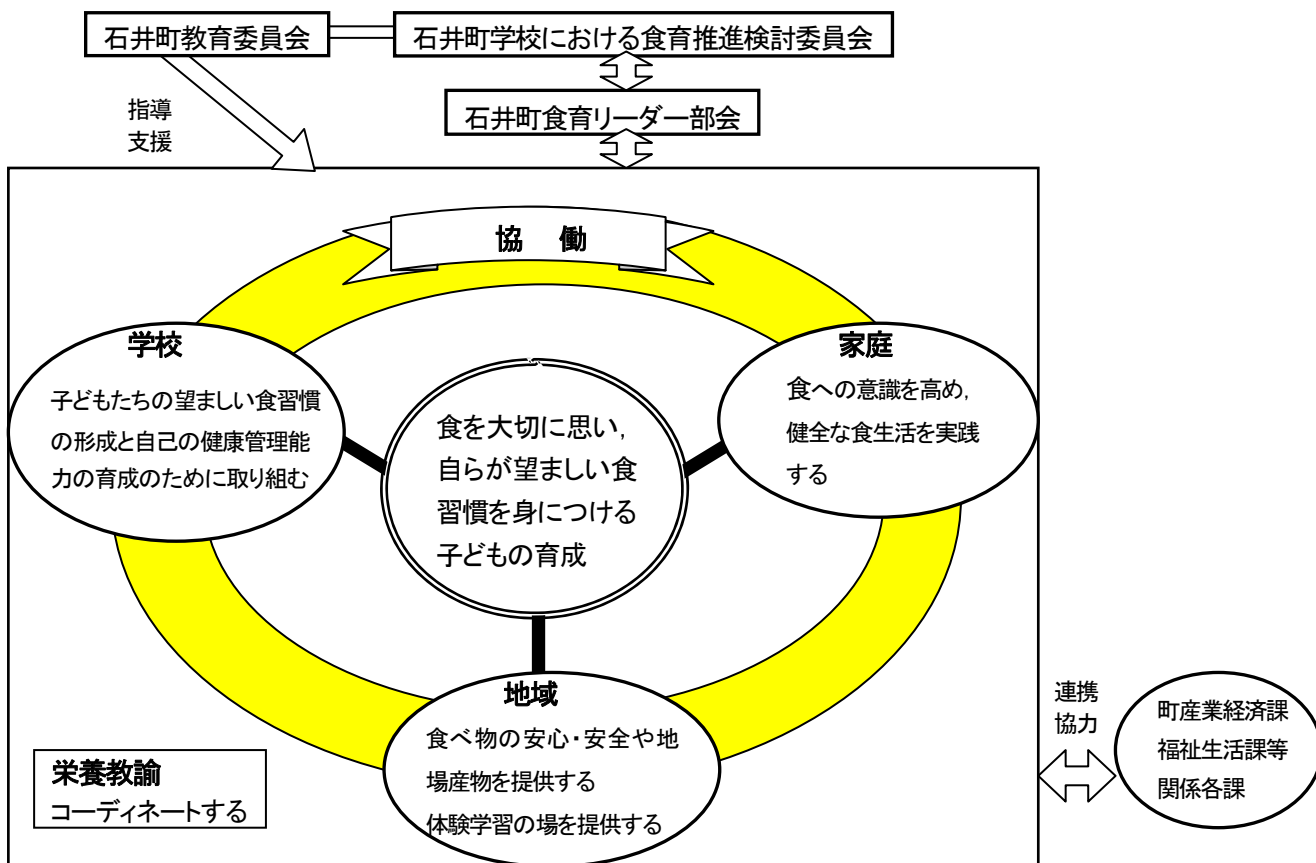
### 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 食生活アンケート調査では、1回目と2回目の結果より、目にみえた成果はあまり現れていなかった。今後も学校と家庭との連携により、食育を推進していきたい。
- 学校給食センターに勤務しているため、受配校すべてに対してきめ細かい指導ができなかった。指導計画を検討して、より効果的な指導ができるよう工夫していきたい。
- 財政が厳しい状況にあるため食育講演会の講師先生を依頼することは、むずかしい状況である。経費のかからない啓発活動を充実させる必要がある。
- 農業体験活動への地域・保護者の支援体制の必要性がある。

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	徳島県
推進地域名	石井町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 食に関する指導の充実

(1) 教科等との連携を図り、生徒の食に対する関心を高め、生徒自らが望ましい食習慣を身につけるための実践を行った。(石井中学校)

#### ①総合的な学習の時間

「バランスのとれた朝食を考えよう」

身近な生活に視点を向け、朝食の役割・望ましい朝食について自らの課題として各自に朝食改善への意識をもたせた。

〈生徒の感想〉

- ・今日、食育の授業をして、改めて朝食をとるということは、すごく大事なことなんだなあと思った。あと、ただ単に朝食をとるのではなく、バランスのとれた朝食にしていきたい。乾先生が考えてくださった自分たちにもできる簡単な料理を試してみたいと思った。
- ・私が今日食べた朝食を見ると、主菜がまったくとれていませんでした。教えてもらったレシピや先生に教えてもらったことをこれからの生活に生かしていきたいです。

副菜がとれないとの声にこたえて簡単な料理を紹介します。  
電子レンジを使った野菜料理を3品作ります。



②技術・家庭科（家庭分野）

夏休みの課題

「朝食づくりにチャレンジしよう！」

総合的な学習の時間で学習してきたことが統合的に働くように、朝食作りを夏休みの課題にし、文化祭での発表へとつなげていった。



保護者の方にも見ていただきました。



すごい！上手に出来ているね！

友だちの作品に興味津々です。

(2) 参観日での食育授業

参観日に食育の授業を行うことで、保護者への啓発が図られた。

○石井小学校1年

「やさいとなかよくなるろう」

○高川原小学校5年

「おやつのおぼら（脂質）について考えよう」



石井町で一番多くとれる野菜は、ほうれん草です。

箱の中にはどんな野菜が入っているのかな？



上手なおやつとり方について班毎に考えます。保護者の方も一緒に考えて、アドバイスします。



(3) 食育リーフレットの作成・配布

食育推進のリーフレットづくりのために地場産物の調査等の研究を行った。リーフレットは町内の保育所・幼稚園・小学校・中学校・関係各団体に配布し、地産池消の推進及び食育推進のために活用している

①地場産物の研究

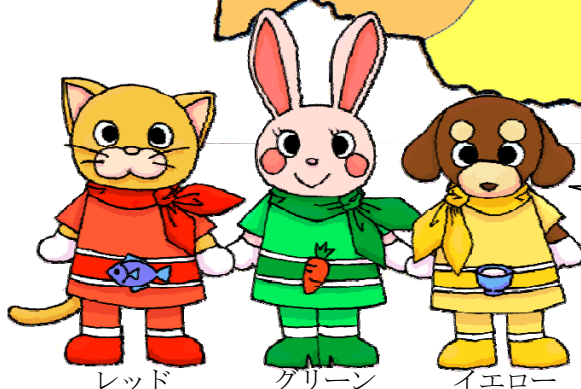
J A, 百姓一, 産業経済課などの協力のもと「石井町農産物マップ」を作成した。

②食育キャラクターの作成

子どもたちの食育への関心を高めるために食育キャラクターを考案した。

「健康戦隊たべるんジャー」は栄養教諭によるもの。「たべるんくん」はイラストレーターに依頼した。

学校食育キャラクター「たべるんくん」



健康戦隊たべるんジャー

レッド

グリーン

イエロー

### ③リーフレットの配布

1 2月上旬に町内の保育所・幼稚園・小学校・中学校に配布した。食育指導に活用されている。

担任教諭によるリーフレットを使っでの指導



食育の研究授業にも使われました。



## テーマ2 学校給食の充実と地場産物の活用推進

### (1) 保護者への献立募集

○小学5年生の保護者を対象に地場産物を活用した給食献立を募集し、給食に取り入れた。料理の内容やレシピは給食だよりや給食放送等で周知している。

### (2) 児童・生徒への献立募集

○小学6年生と中学生の児童・生徒を対象に給食献立を募集し、給食に取り入れている。料理の内容やレシピは給食だよりや給食放送等で周知している。

### (3) 生産者訪問及び啓発資料作成

○生産者を訪問・取材し、その内容を臨時給食だよりに掲載し、地場産物についての関心を深めた。

### (4) とくしま学校食育の日

○毎月19日「食育の日」に地場産物を活用した給食を実施し、給食だより等で家庭への啓発活動を行っている。

### (5) 「石井町盛りだくさんの日」の実施

○石井町でとれる野菜のみを使用した給食を実施した。生産地や生産者などの詳しい情報を児童・生徒へ周知し、生産者への感謝の気持ちや石井町を愛する気持ちを育てることができた。

#### ① 第1回実施

7月3日(金)

米・たまねぎ・にんじん・なす  
ピーマン・きゅうり・かぼちゃ  
キャベツ・ミニトマト

#### ② 第2回実施

1月25日(月)

米・ねぎ・キャベツ・はくさい  
ブロッコリー・だいこん・かぶ

教室では野菜の生産地と生産者が紹介された。



## 石井町盛りだくさんの日

今日は「石井町盛りだくさんの日」です。今日の給食の米と野菜は全部、石井町でとれたものです。

○米は 石井の「大西 敏生」さん  
○とり肉のねぎソースあえの  
ねぎは 浦庄の「福原 孝典」さん  
○たっぷりやさいのスープ煮の  
だいこんは 浦庄の「有持 益生」さん  
かぶは 浦庄の「金山 広治」さん  
はくさいとキャベツは

浦庄の「宮越 隆之」さん  
ブロッコリーは 浦庄の「福原 孝典」さんが作ってくれました。

また、肉は、徳島県のとり肉、豚肉も徳島県の阿波ポークを使用しました。

石井町のおいしい野菜や徳島県のおいしい肉が食べられることに感謝していただきましょう。

## テーマ3 学校・家庭・地域の連携による食育の推進

### (1) ドクターズキッチンinスクールの開催(平成21年11月19日)

①目的 子どもたちが望ましい食習慣と自己管理能力を身につけることができるようにするため、学校・家庭・地域社会がともに連携しながら、食育を推進する目的で、「ドクターズキッチン in スクール」を開催する

④内容 ア 医師による講演会

「生活習慣病の予防と食生活」 健生病院石井クリニック所長 樋端 規邦 先生

イ 地場産物を使ったヘルシーレシピの紹介と「新鮮なっ!とくしま号」によるヘルシー料理の実演試食会



(2) 親子料理教室の実施 (各小・中学校6校)

- 目的 ・親子で食の大切さを学び、好ましい食習慣を身につける場とすること
- ・親子と一緒に料理に取り組み、ふれあうことにより、心豊かな子どもを育てること

生活習慣病の予防についての講義をした後、野菜たっぷりの料理を実習した。

親子で共食の場をもてたことが好評で、料理や栄養の話題を家庭へとつなげることができた。



(3) 家庭教育学級での実践

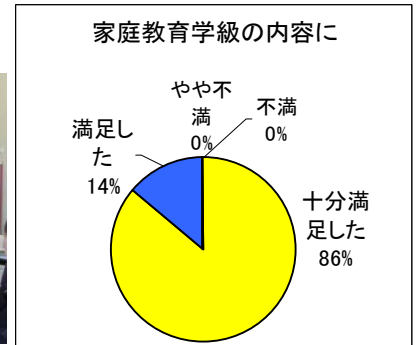
石井町家庭教育学級において、講師として食育についての講演等を行っている。

本年度は「おやつについて考えましょう」とし、おやつ作りの調理実習とおやつを選び方、清涼飲料水についてなどを学習した。

幼稚園～中学校と幅広い年代の保護者に対し食育の推進が図られた。

〈参加者の感想〉

- ・いつも何気なく飲んだり食べたりしている清涼飲料水や駄菓子も、砂糖の量や食品添加物についてもっと考えて、子どもと一緒に勉強しながら買い物したいと思います。



テーマ1～3に共通する具体的計画

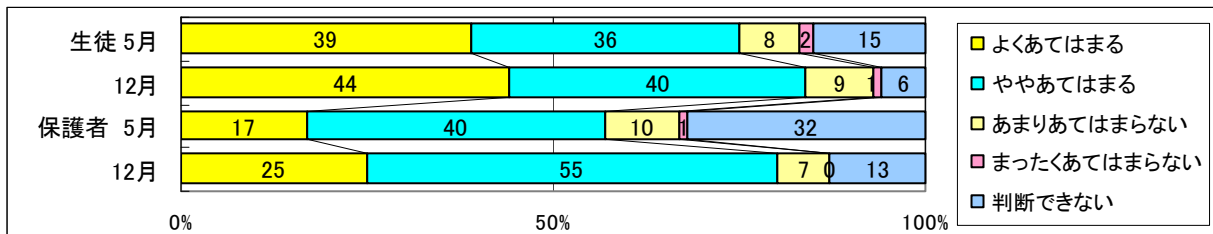
- 食育推進のリーフレットづくりのために地場産物の調査等の研究を行った。リーフレットは町内の保育所・幼稚園・小学校・中学校・関係各団体に配布し、地産池消の推進及び食育推進のために活用されている。
- 実践中心校でのアンケート結果 (5月実施) をもとに食育の推進を実施している。
- 福井県小浜市でチャイルドキッチンを視察し、親子料理教室に役立っている。

数字で変化のあった事項について

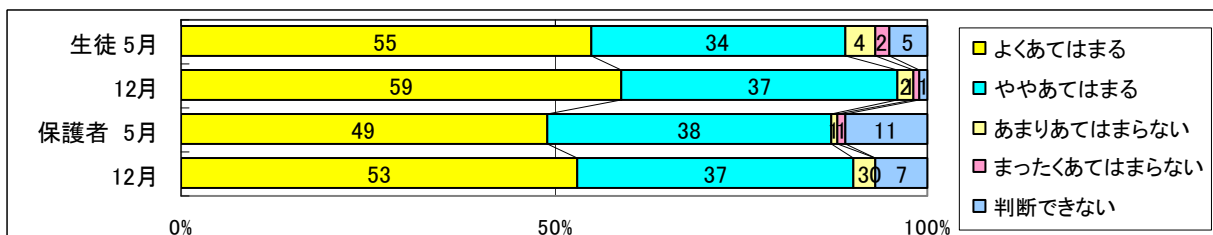
- 米飯給食の増加 週3.25回 → 週4回
- 地場産物の活用率 (食材数) 73.3% → 76.6%
- 食育の推進を啓発することができた。

(石井中学校1年生徒及び保護者のアンケート結果より)

①石井中学校は食育に取り組んでいると思う



②給食には、石井町の米や野菜を使っていると思う



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

### ○食育リーフレット

地場産物への関心や地域の食文化への関心が高まり、食育の推進が図られた。

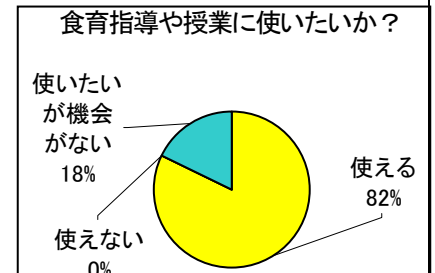
#### ★食育リーフレットについての感想等

〈児童〉・石井町でとれるものや食事のバランスの表がとても分かりやすかった。

- ・これからは健康のために、栄養のバランスのとれた食事をしたいと思った。
- ・石井町の野菜は安全だから安心して食べることができるので、石井町はいいなと思いました。

〈教諭等〉・カラー刷りで子どもたちに親しみやすいかわいい動物のキャラクターで紹介されており、小さい子どももひとめで見てわかりやすいのがよかったです。

・今まで食べ物の働きを口頭で話してきましたが、リーフレットをいただいて視覚に訴えることができ、食育の指導に使わせてもらいました。



### ○親子料理教室

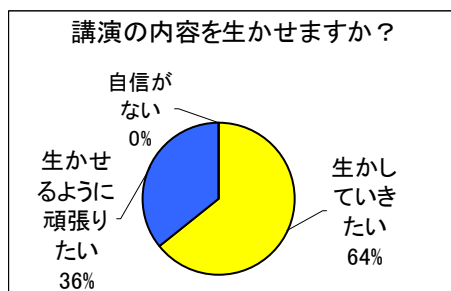
「今後、生活習慣の改善を図っていきたい」という保護者が多かった。生活習慣病の講義の後に、野菜をたっぷり使った調理実習をしたのが効果的であったと思われる。また、一緒に料理したり、話す機会が少なくなる中学生や小学校高学年の児童・生徒と親とのふれあいの機会がもてたことが好評であった。

### ○ドクターズキッチン in スクール

生活習慣を見直すきっかけとなり、健康増進への意識が高まった。

#### 〈保護者の感想〉

- ・非常に分かりやすく話していただいたので、よく理解できました。生活習慣を見直していきたいと痛感しました。
- ・家族の健康のためにバランスのよい食事づくりを心がけたいです。
- ・とてもおいしかった。作り方を見て、また家で試してみようと思います。
- ・これからの食事にぜひ役立てたいと思います。
- ・今日をきっかけに食事の改善をしたいと強く思いました。



## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○朝食欠食が5月に比べて増加している。(石井中学校1年アンケート結果より) 中学1年生は、学校生活にも慣れ、個人差はあるものの全体的に夜型へと進み、そのことによって朝食を欠食することもあり課題は多い。朝食の大切さや栄養のバランスなどの知識は身につくつあるものの、それが生活で実践できていないという実態がある。今後も家庭と連携した指導を継続する必要がある。

#### 朝食を食べている



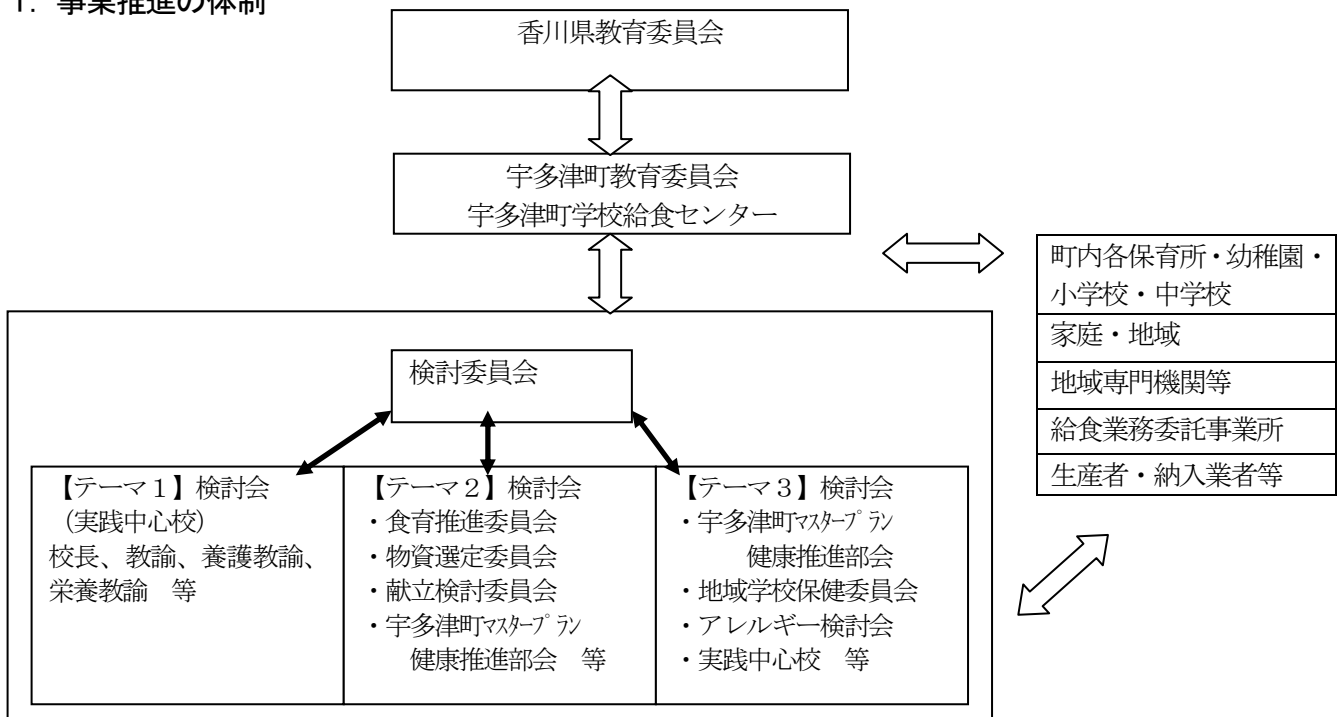
○親子料理教室は、小学校に比べ中学校の保護者の参加が少ない。たくさんの保護者が参加できるように、開催日時等を工夫する必要がある。

○石井町内の学校全体で食育に取り組むためには、家庭や地域との連携を図りながら、幼稚園、小学校、中学校との連携を広げていく必要がある。それには、それぞれが横断的継続的に協力し合える体制づくりの構築が今後の課題である。




# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	香川県
推進地域名	宇多津町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

<b>テーマ1</b>	<b>各教科等と関連付けた食に関する指導の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食に関する指導に係る全体計画の作成</li> <li>② 学校支援ボランティアと連携した体験活動の工夫                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の栽培・調理活動、地域に伝わる伝統料理づくり等</li> </ul> </li> <li>③ 栄養教諭による学校給食を活用した関連教科等の指導の実践</li> </ul>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>骨コツ作戦 (総合・学級活動) 給食から骨を強くする秘訣をみつけよう。</p> </div> <div style="text-align: right;">  </div> <div style="text-align: right;">  <p>さつまいも料理を作ろう (生活科)</p> </div> </div>	
<b>テーマ2</b>	<b>学校給食を活用した「食」に対する意識向上を図るための取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童・家庭を対象とした食生活に関する意識調査の実施</li> <li>② 学校給食の活用                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等の食に関する指導と関連づけた給食指導の実践</li> <li>・児童会による啓発活動の推進</li> <li>・学校給食の意義、家庭の食卓の大切さ等を啓発するための給食試食会の実施</li> </ul> </li> <li>③ 学校開放日やPTA開催日などに啓発資料を掲示し、保護者への食に関する啓発を実施</li> <li>④ 「食」を通じた親子のふれあいを深めるための親子料理教室の開催</li> <li>⑤ 「食」の大切さについて広く保護者、地域に啓発するための食育講演会の開催</li> </ul>	
 <p>1年生給食試食会</p>	

### テーマ3

### 子ども一人一人の健康を保持増進するための家庭・地域と連携した取組

#### ① 生活習慣病予防のための個別指導の充実

- ・小児生活習慣病予防検診有所見者、肥満傾向にある児童、偏食のある児童等やその家庭に対する個別相談のあり方の検討と実践
- ・個別指導のための資料等作成
- ・宇多津町内の要個別相談児童生徒と保護者を対象とした健康増進を図るための親子料理教室、運動指導員を招いての運動教室（「うたづ元気っ子クラブ」）等の開催



「うたづ元気っ子クラブ」

#### ② 学校給食におけるアレルギー対応食に係る体制整備

#### ③ 児童生徒の望ましい食習慣を形成するための啓発活動

- ・「早寝 早起き 朝ごはん」を実践するための啓発活動

### テーマ1～3に共通する具体的計画

#### 1. 先進地視察

##### ① 食育先進地視察

本町の食育の推進の参考とするため、愛媛県松山市立姫山小学校において11月に開催される「平成21年度 栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業研究発表会」に、実践中心校より教諭・栄養教諭が参加した。

学校教育活動全体を通じた系統性を図った取組みを学び、今年度の活動や、さらに来年度の年間計画の見直し等に参考にすることができた。

##### ② 小児生活習慣病予防対策先進地視察

本町では、平成16年度より小児生活習慣病予防対策として小学校4学年、中学校1学年の希望者を対象として血液検査を実施している。

小児生活習慣病の予防体制のあり方や具体的指導内容等、幅広い実践例について研修するため、先進地域である松山市教育委員会及び推進校の視察を11月に行った。参加者は、宇多津町教育委員会担当、養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員である。

地域の大学病院等の医療機関や検査センター、行政、教育現場が一体となった体制作りや予防の実際を学ぶことができた。小児生活習慣病予防対策を推進するにあたり、こうした専門家との連携の図り方が課題ではあるが、今後、このような専門機関との連携を図り推進していきたいと考える。

#### 2. 食に関するアンケートの実施とその結果に基づいた取組

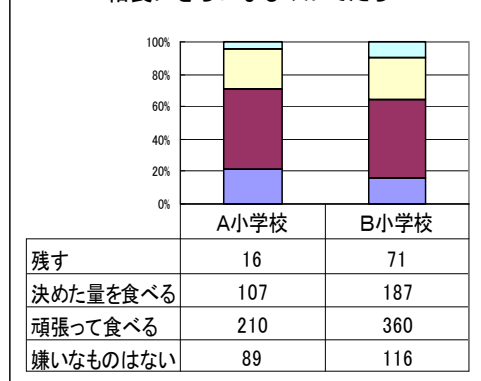
当該事業に先だち、町内小学校2校全児童を対象としてアンケートを実施した（平成21年6月実施）。アンケートの結果分かった児童生徒の食生活に関する問題を、教職員一人一人の課題としてとらえ、町内で共通理解を図りつつ取組むこととした。

##### ① 給食残菜量を減らす取組

香川県内の他市町と比較して本町は、給食残菜率が高い（平成21年6月残菜率 旧町内A小学校4% 新町内B小学校11%）。また、アンケートの結果、「嫌いなものがでたら残す」と答えた児童がB小学校では10%おり、給食の1/4程度の料理が手付かずのまま給食センターに返されることもあった。

このことから、町内の給食主任会等で、「各学級に配缶されている給食量を全部均等に配分し自分の成長に必要な適正量を知ったうえで、自分の目標量を決めて食べる」ということを共通理解し、給食指導にあたることとした。

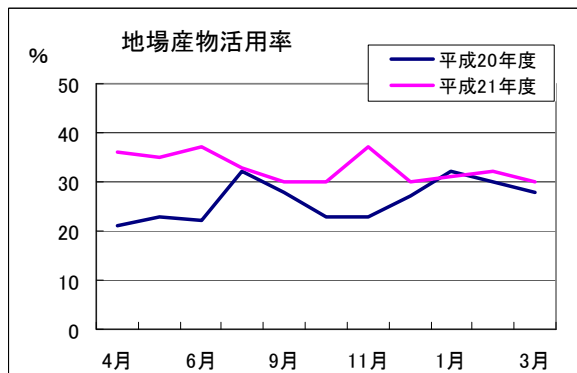
給食にきらいなものがでたら



## 数字で変化のあった事項について

### <学校給食を通して見られた変容>

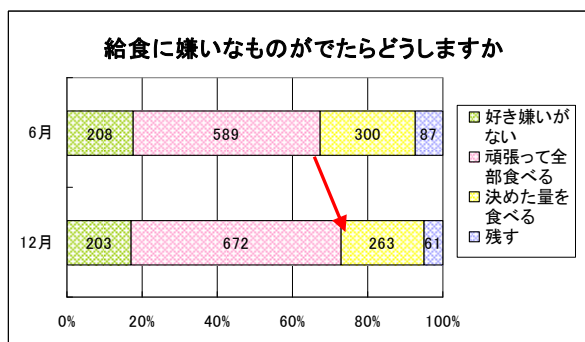
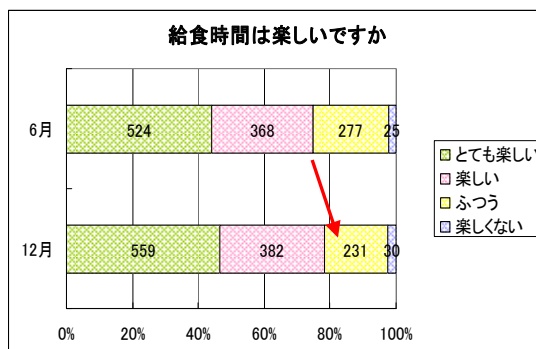
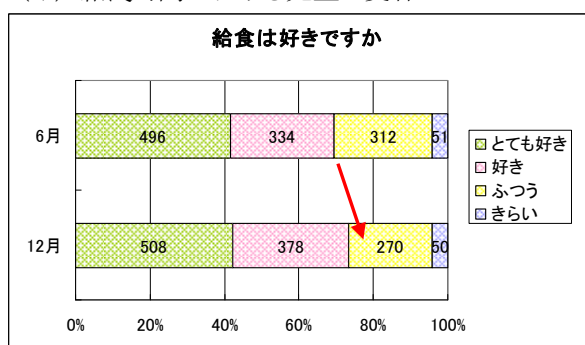
#### (ア) 地場産物活用率の変化



宇多津町は物資の購入も民間業者に委託している。食の安全性やアレルギー対応食にきめ細かく対応するため、今年度より保護者を交えた物資選定委員会を発足し、食の安全確保に努めてきた。

また、給食献立の見直しだけでなく、委託業者や納入業者等の理解・協力により、香川県や宇多津町内産の地場産物の活用率も増えてきている。

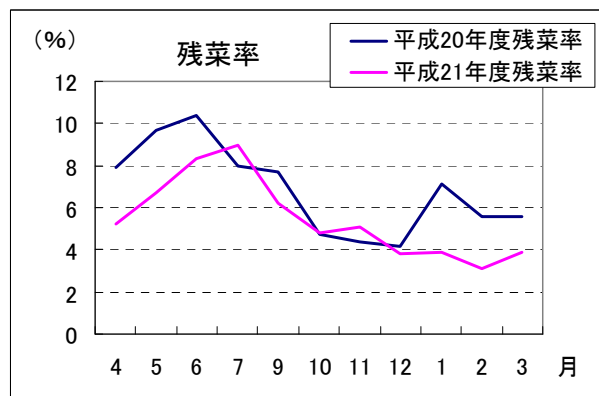
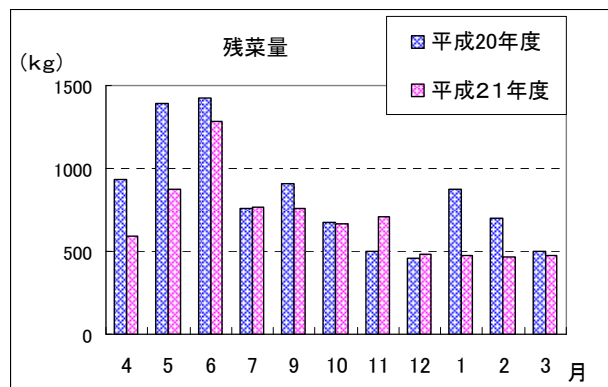
#### (イ) 給食時間における児童の変容



今年度、各学校間で共通理解を図りつつ給食指導を進めてきた(中間報告参照)。そこで、宇多津町内の2小学校全校生(1,214名 平成21年12月現在)を対象に6月・12月にアンケートを実施した。

12月の意識アンケートでは、給食に関心を持ち、楽しみにする児童が増えてきている。また、苦手なものでも頑張って食べる児童の姿も多く見られるようになってきた。給食の残菜率については、11月はインフルエンザの流行で残菜率が一時的に上がったが、全体的に減少傾向にある。

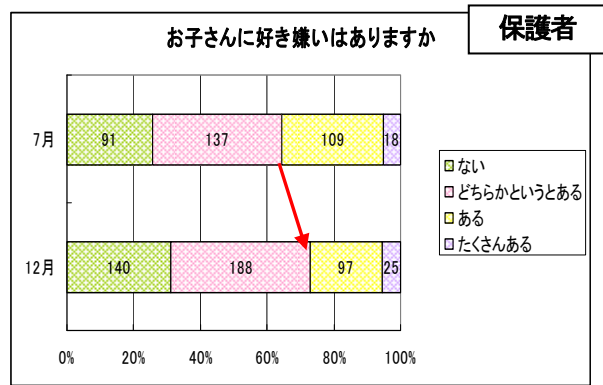
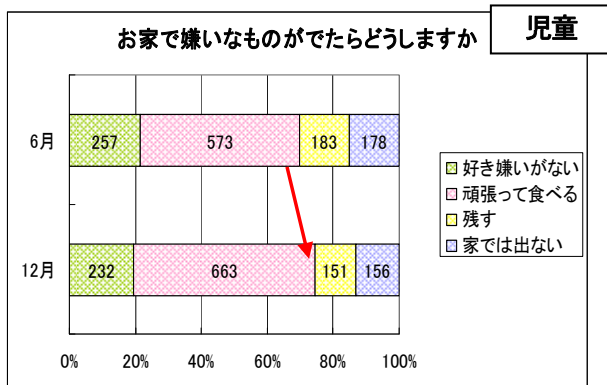
#### (ウ) 宇多津町の学校給食残菜率の変化



### <家庭との連携によって見られた変容>

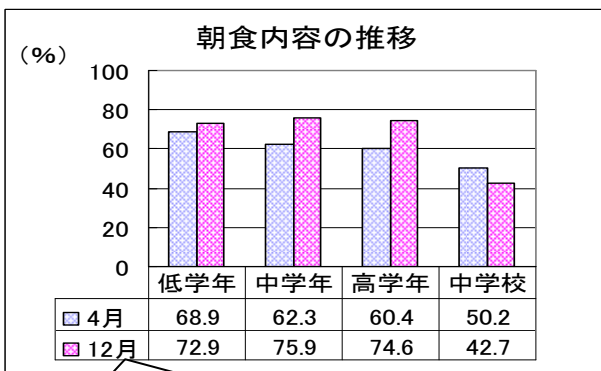
#### (ア) 家庭の食卓における児童の変容

児童へのアンケートに加え、推進事業中心校である宇多津小学校全校生の保護者(回答数 7月:355名 12月:450名)に食育についてのアンケートを実施した。



児童に対するアンケートの結果、給食の時間だけでなく家庭の食事でも「好き嫌いをなく食べよう」とする姿が多くなっている。保護者に対するアンケートにおいても「偏食がある」と答える保護者が減少し、子どもたちの変容がうかがえる。

#### (イ) 朝食内容の変化



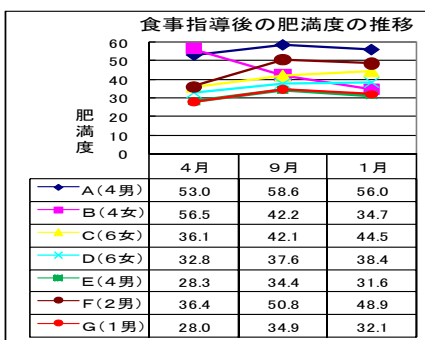
『元気週間調べ』（テーマ3「早寝 早起き 朝ごはん運動参照」）で11点以上/5日間の児童生徒の割合の推移

朝食内容を点数化し、11点以上獲得している児童生徒の推移をみた。4月の調査では、高学年になるにつれ11点以上をとっている児童生徒の割合が減少していたが、「早寝 早起き 朝ごはん」の継続的な指導により、小学校では朝食内容が充実してきている。一方で、中学校は減少している。

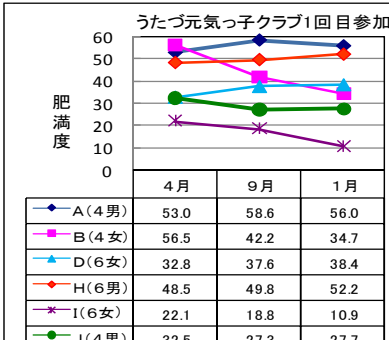
- 朝食のメニューに「緑の食べ物」「黄色の食べ物」「赤の食べ物」を探すようになりました。栄養のバランスが少しずつわかるようになってきたみたいで家では残さず頑張って食べています。
  - 朝食バランスを色分けするような取組はいいなと思いました。家でもきちんと食べたり、バランスのよいものにしたりしたいと思います。
- ～小学校保護者アンケートより～

#### <個に応じた食育を通して>

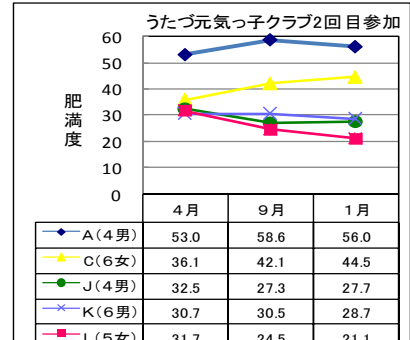
##### (ア) 小児生活習慣病予防に関する取組から



(指導日:A・B児小児生活習慣病予防検診の事後指導7月 C～F児は12月)



(指導日:7月)



(指導日:11月)

個別指導後の肥満度の推移を見ると、肥満度が30%程度だった児童は成果が現れやすく減少している児童が多いが、肥満度が高いと改善されにくい。早期の対応が望まれる。しかし、食事指導等の必要性をあまり感じていない保護者も多く、参加率を高める手立てが必要である。

##### (イ) アレルギー対応食に関する取組から

保護者との面談や電話連絡等を行うなかで、アレルギーをもつ児童や保護者の不安を改めて感じた。今後も、児童生徒一人一人が安心して給食を楽しみ、充実した学校生活を過ごすことができるように努めたい。

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

### 食育推進事業全体を通して

- 宇多津町内で連携を図った本食育推進事業を通して、児童生徒の食に対する興味関心が少しずつではあるが高まりつつある。また、学校行事や宇多津町の行事を通して、家庭や地域とのつながりをもてたことで、家庭や地域、学校における食育への関心が高まった。今後、食育を推進する基盤づくりができた。

### テーマ1 教育活動全体を通して取り組む「食育」の充実

- 実践中心校では、学年ごとの重点項目を設定し食育に取り組んできた。学年内で各教科・総合的な学習の時間等との関連性を図った多様な体験活動や給食時間の有効な具体指導につながりをもたせることができた。

### テーマ2 学校給食を活用した「食」に対する意識向上を図るための取組

#### <給食指導より>

- 宇多津町内で共通理解を図り給食指導をすすめてきた。学級担任や児童会活動を通し食の大切さについて呼びかけたり、各学校で給食がんばり週間を設け残菜0運動にも取り組みを行ったりした。こうした取組により、給食の時間や家庭でも目標をもち頑張る姿が見られるようになってきている。

#### <保護者・地域啓発活動より>

- 学校開放日に、公開授業や給食のパネル展示、食育コーナーを設けたり、町の健康祭りで食育講演会を開催したりすることにより、食育や給食センターでの取組について保護者、地域に啓発することができた。

#### <地場産物の活用より>

- 学校給食内容の充実を図るため地場産物の活用に努めた。給食時間の放送や学校給食をとり入れた授業実践より、児童生徒のなかに地域でとれる食材やそれを使った郷土料理などに関心が深まってきている。また、町が主体となり地場産物の計画栽培に取り組んでくれるようになった。

### テーマ3 子ども一人一人の健康を保持増進するための家庭・地域と連携した取組

- 宇多津町内で共通理解を図り「早寝 早起き 朝ごはん」運動に取り組んできた。月に一週間「がんばり週間」を設けたり、朝食内容を点数化したりすることにより、家庭のなかで朝食内容を充実させようとする意識が高まりつつある。また、公開授業や学級活動、関連教科等で朝食についての授業実践を行うことにより、朝食をきちんと食べようとしたりバランスを確認したりする児童が増えてきた。
- 小児生活習慣病予防対策では、町内の養護教諭・栄養教諭・学校栄養職員で連携し個別指導や「うたづ元気っ子クラブ」などの具体的な実践活動を行うことができた。

## 今後課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

### 食育推進事業全体を通して

- 本食育推進事業を実践するなかで、学校教育活動のなかで学習指導要領改定にともなう「食育」をいかに位置づけ実践していくかが課題となった。系統的に継続した食育を推進するためには、児童生徒・家庭・地域の実態に応じた食に関する指導に係る全体計画、年間指導計画を整理することが必要である。今後とも、宇多津町内の幼稚園から中学校までの全教職員が共通理解を図りつつ実践していくことが大切であると考えます。
- 食生活の改善や望ましい食習慣の形成には、食育における成果は短期間では表れにくいいため、継続的な啓発活動が必要である。今後、学校が家庭・地域との連携を深め、地域全体で食育を推進していく必要がある。
- 食育の中心は給食時間である。この給食時間を効果的に食について学ぶ時間とするために、いっそう給食献立の内容の充実や指導方法について共通理解を深める必要がある。
- 地場産物の購入は、今のところ納入業者の努力によるところが大きい。さらに学校給食の内容の充実を図るために町の産業振興課等の行政機関や生産者との連携を図り地場産物活用の体制作りに取り組む必要がある。
- 今年度、給食指導や「早ね 早起き 朝ごはん」運動、小児生活習慣病予防に取り組む中で家庭との連携の必要性を強く感じた。今後、児童一人一人の健康の保持増進のためになおいっそう家庭の理解・協力を深めるための手立てを講じる必要がある。